

紫外線カットフィルムを展張した連棟ハウスにおけるタバココナジラミ防除のポイント

紫外線カットフィルムを展張した連棟ハウスにおける栽培初期のタバココナジラミ防除は、側面開口部に面した株で発生が多くなる特性を利用すると高い効果が期待できる。

農業研究センター 生産環境研究所 病害虫研究室(担当者:樋口聡志)

研究のねらい

県内の施設野菜に発生しているタバココナジラミのほとんどは、バイオタイプQである(平成19年度農業の新しい技術)。バイオタイプQに効果の高い農薬は少なく、他の防除法と組み合わせる必要がある。紫外線カットフィルムは、タバココナジラミのハウス内への侵入とハウス内での移動分散を抑制する物理的防除資材である。そこで、紫外線カットフィルムを被覆した連棟ハウスでタバココナジラミの移動分散および分布を調べ、効率的に農薬が使用できるようにする。

研究の成果

1. タバココナジラミは、紫外線量が少ないと移動分散しにくい(図1)。
2. 紫外線カットフィルムを被覆した連棟ハウスにおいて、栽培初期のタバココナジラミ寄生数は、側面開口部に面した株で内側の株より多くなる。しかし、栽培後期になると内側の株でも増加し、内側と外側の差がなくなる(図2)。
3. 以上の結果から、紫外線カットフィルムを被覆した連棟ハウスにおいて、栽培初期のタバココナジラミに対する薬剤防除は、側面開口部に面した株で発生が多くなる特性を利用した防除を行うと高い効果が期待できる。

普及上の留意点

1. 紫外線カットフィルムは、薬剤や防虫ネット等の防除資材と組み合わせて使用する。
2. 紫外線カットフィルムを被覆した連棟ハウスにおける防虫ネットの目合いは、側面開口部では谷開口部より小さくする(防虫ネット目合い:側面0.4mm、谷0.8mm推奨)。
3. ナス等の作物、またはミツバチ等を利用する作物では、紫外線カットフィルムは使用しない。また、紫外線カットフィルム下の作物は、全般的に生育が徒長しやすい。
4. カットする波長域が異なる様々な紫外線カットフィルムが市販されているが、タバココナジラミに対する防除効果は、390nm以下を完全にカットするフィルムで高い。

〔具体的データ〕

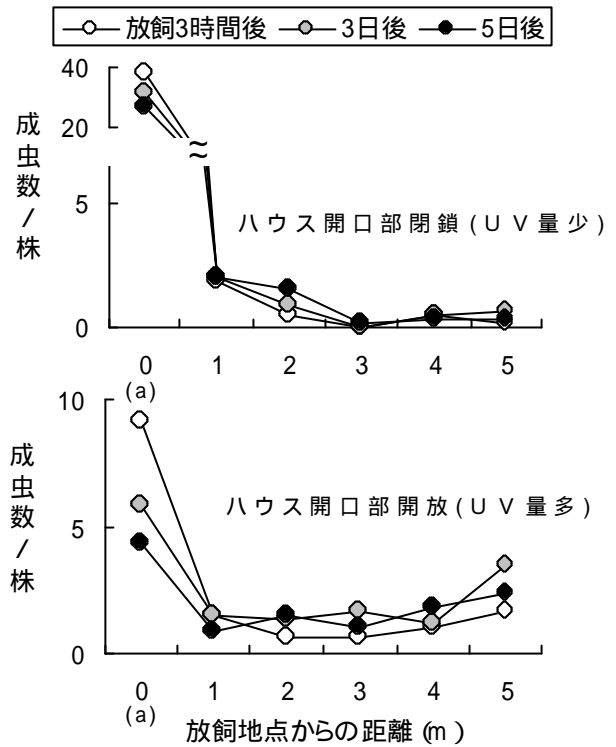
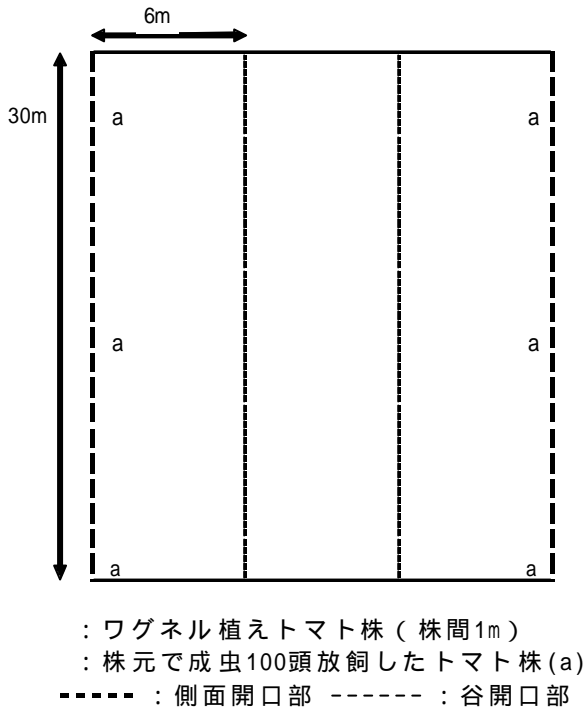


図1 紫外線カットフィルムを被覆した3連棟ハウスの試験図 (左) とハウス開口部閉鎖 (右上) および開放条件 (右下) でのタバコナジラミバイオタイプQの移動分散

供試フィルム：カットエースキリナイン (390nm以下カット)。ハウス開口部：側面および谷部。左図の (a) で成虫100頭を放飼し、その後、株ごとに成虫数を調査した。グラフは6反復の平均。

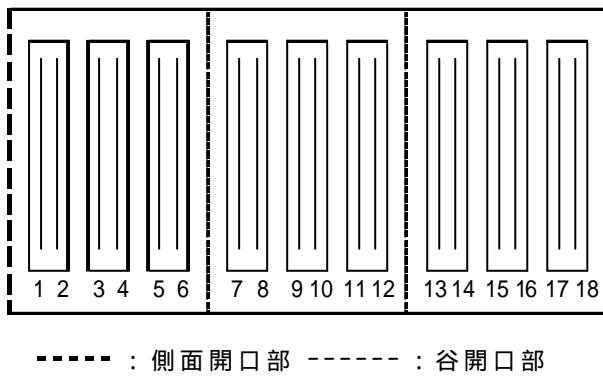


図2 紫外線カットフィルム被覆のトマト栽培3連棟ハウス図 (左) と時期別の各条におけるタバコナジラミ寄生数 (右)

供試フィルム：カットエースキリナイン
 開口部：目合い10.8mm防虫ネット設置
 定植：07/9/26 (2条/畝、3畝/棟)
 右図の条Noは、左図の条を示す。
 栽培期間の薬剤散布はなかった。

